

四半期報告書

(第95期第2四半期)

松井証券株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【株価の推移】	11
3 【役員の状況】	12
4 【業務の状況】	13
第5 【経理の状況】	18
1 【四半期連結財務諸表】	19
2 【その他】	34
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	35

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年11月12日

【四半期会計期間】 第95期第2四半期(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

【会社名】 松井証券株式会社

【英訳名】 MATSUI SECURITIES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松井 道夫

【本店の所在の場所】 東京都千代田区麴町一丁目4番地

【電話番号】 03(5216)0606 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務グループ グループリーダー 鵜澤 慎一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区麴町一丁目4番地

【電話番号】 03(5216)0606 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務グループ グループリーダー 鵜澤 慎一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第94期 第2四半期連結 累計期間	第95期 第2四半期連結 累計期間	第94期 第2四半期連結 会計期間	第95期 第2四半期連結 会計期間	第94期
会計期間	自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 7月 1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 7月 1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日
営業収益 (百万円)	13,386	11,026	6,548	4,849	24,346
純営業収益 (百万円)	12,750	10,651	6,260	4,679	23,276
経常利益 (百万円)	6,389	5,288	3,409	2,132	11,545
四半期(当期)純利益 (百万円)	4,086	3,305	1,969	1,278	7,661
純資産額 (百万円)	—	—	70,613	73,651	74,203
総資産額 (百万円)	—	—	482,211	433,173	466,089
1株当たり純資産額 (円)	—	—	275.05	286.88	289.03
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	15.92	12.87	7.67	4.98	29.84
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	14.36	12.03	6.95	4.73	26.97
自己資本比率 (%)	—	—	14.6	17.0	15.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△49,924	△6,808	—	—	△44,912
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,305	△707	—	—	△3,272
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,702	6,295	—	—	△3,265
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	—	25,313	22,171	23,391
従業員数 (名)	—	—	108	119	108

(注) 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数(名)	119 [179]
---------	--------------

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。なお、産休等による休職者3名を含んでおります。
2 従業員数欄の [] 内は、臨時従業員の当第2四半期連結会計期間の平均人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数(名)	119 [175]
---------	--------------

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。なお、産休等による休職者3名を含んでおります。
2 従業員数欄の [] 内は、臨時従業員の当第2四半期会計期間の平均人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に異常な変動等はありません。また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間における我が国経済は、民間設備投資の持ち直し、輸出や生産の増加を背景に景気は緩やかに回復しています。一方、雇用・所得環境については引き続き厳しい状況が続いていますが、個人消費は猛暑の影響や耐久消費財の駆け込み需要もあり、持ち直し基調が続いています。

日本の株式市場においては、期首に9,000円台であった日経平均株価は、円高への警戒感などにより下落し、8月後半には9,000円を下回りました。9月半ばには、政府・日銀による為替介入を受けて一時的に株価は上昇しましたが、介入効果は限定的であり、9月末にかけて9,500円前後で推移しました。

このような市場環境の中で、三市場（東京、大阪、名古屋の各証券取引所）合計の株式売買代金は、前第2四半期連結会計期間と比較して19%減少しました。一方、当社グループの主たる顧客層である個人投資家については、株価下落の影響を受けて、買い余力が低下し、かつ取引意欲も減退したことにより動きが低調となり、三市場全体の個人の株式委託売買代金は前第2四半期連結会計期間と比較して43%減少しました。その結果、三市場における個人の株式委託売買代金の割合については、前第2四半期連結会計期間の22%から16%に低下しております。

このような事業環境のもと、当第2四半期連結会計期間において当社グループは、夜間先物取引における取引時間の延長やモバイル対応、大証先物取引における取引時間の延長、iPhone向けアプリケーション「株touch」のトレーディング機能追加等の顧客向けサービスの向上に努めました。しかしながら、個人全体の株式委託売買代金が低迷したことにより、当社グループの株式委託売買代金は、前第2四半期連結会計期間と比較して42%減少しました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の営業収益は48億49百万円（対前年同四半期連結会計期間比26.0%減）、純営業収益は46億79百万円（同25.3%減）と、ともに減収となりました。また、営業利益は21億31百万円（同37.5%減）、経常利益は21億32百万円（同37.4%減）、四半期純利益は12億78百万円（同35.1%減）と、ともに減益となりました。

(受入手数料)

受入手数料は30億21百万円（同34.6%減）となりました。そのうち、委託手数料は26億円（同36.6%減）となりました。これは主として、株式委託売買代金が前第2四半期連結会計期間と比較して42%減少したことによるものです。その他の受入手数料は、店頭外国為替保証金取引「NetFx」による受入手数料2億12百万円（同34.0%減）を含め、4億21百万円（同19.0%減）となりました。

(トレーディング損益)

トレーディング損益は1百万円の利益となりました。

(金融収支)

金融収益は18億27百万円（同5.1%減）、金融費用は1億70百万円（同41.0%減）となりました。その結果、金融収支は16億57百万円（同1.2%増）と微増に留まりました。

(販売費・一般管理費)

販売費・一般管理費は25億48百万円（同10.5%減）となりました。これは主として、システム関連費用の削減により、事務費が4億52百万円（同26.9%減）となったこと等によるものです。

(営業外損益)

営業外損益は、合計で1百万円の収益となりました。

(特別損益)

特別損益は、合計で22百万円の利益となりました。これは貸倒引当金戻入額22百万円によるものです。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比7.1%減の4,331億73百万円となりました。これは主として、預り金の減少等を背景として預託金が同9.3%減の2,232億55百万円となったことによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末比8.3%減の3,595億22百万円となりました。これは主として、預り金が同16.4%減の1,108億72百万円となったことによるものです。

純資産合計は前連結会計年度末比0.7%減の736億51百万円となりました。当第2四半期連結累計期間においては、四半期純利益33億5百万円が計上される一方、平成22年3月期期末配当金38億51百万円の計上を行っております。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、404億11百万円のプラス（前年同四半期は138億55百万円のマイナス）となりました。これは、信用取引資産及び信用取引負債の増減が主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、96百万円のマイナス（前年同四半期は7億95百万円のマイナス）となりました。これは、無形固定資産の取得による支出が主な要因です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、463億16百万円のマイナス（前年同四半期は167億58百万円のプラス）となりました。これは、短期借入金の純減少が主な要因です。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、221億71百万円（前年同四半期末は253億13百万円）となりました。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの主たる事業は、個人投資家向けの株式委託売買業務であり、収入項目としては受入手数料、とりわけ株式売買に関する委託手数料が当社グループの業績に重要な影響を及ぼします。また、主として信用取引に起因する金融収益についても当社グループの業績に重要な影響を及ぼす要因となります。しかしながら、その水準は、株式市場の相場環境に大きく左右されます。当第2四半期連結会計期間につきましては、「(1) 経営成績の分析」に述べる通り、金融収支は微増したものの、株式委託売買代金が前第2四半期連結会計期間と比較して42%減少したこと等により、営業収益、純営業収益ともに対前第2四半期連結会計期間比で減収、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに対前第2四半期連結会計期間比で減益となりました。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、信用取引貸付金の増減等に対応した経常的な調達については、金融機関からの借入金を中心に、コール・マネーの調達、コマーシャル・ペーパーの発行といった手段を適宜検討しつつ対応しております。その他資金調達全般につきましては、従来より多様化に努めております資金調達源の中から、その時点における顧客の信用取引残高と市場環境等を考慮しつつ、適切な手段を選んで実施することとしております。また、調達資金の償還、返済にあたっては同様に、適切な手段を総合的に検討の上、必要に応じて借り換えあるいは新たな調達を実施いたします。

なお、借り換え等を行う際における市場の混乱等によるリスクを低減させるため、銀行等金融機関とコミットメントライン契約を締結しております。

(6) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(7) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,050,000,000
計	1,050,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	269,264,702	269,264,702	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	269,264,702	269,264,702	—	—

(注) 提出日現在の発行数には、平成22年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

平成13年改正旧商法第341条ノ2の規定に基づき発行した転換社債型新株予約権付社債は、次のとおりであります。

2011年3月満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債（平成15年11月17日発行）	
	第2四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	7,788
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 単元株式数 100株
新株予約権の目的となる株式の数（株）	13,402,168
新株予約権の行使時の払込金額（円）	新株予約権1個当たり2,000,000 1株当たり 1,162.2
新株予約権の行使期間	平成15年12月1日から平成23年3月17日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 1,162.2 資本組入額 582
新株予約権の行使の条件	新株予約権の一部行使はできない
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権のみ社債からの分離譲渡はできない
代用払込みに関する事項	(注)
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—
新株予約権付社債の残高(百万円)	15,576

(注) 新株予約権1個の行使に際しては、当該新株予約権に係る社債を出資するものとし、当該社債の価額は、その発行価額と同額とします。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日 (注)	5	269,265	1	11,945	1	9,793

(注) ストックオプション方式の新株予約権の行使によるものであります。

(6) 【大株主の状況】

平成22年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
松井千鶴子	東京都文京区	69,700	25.89
松井道夫	東京都文京区	31,864	11.83
有限会社松興社	東京都文京区西片2丁目4番2号	24,391	9.06
有限会社丸六	東京都文京区西片2丁目4番2号	10,692	3.97
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	8,529	3.17
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	7,754	2.88
松井道太郎	東京都文京区	4,390	1.63
松井千明	東京都文京区	4,390	1.63
松井佑馬	東京都文京区	4,390	1.63
J Pモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング	3,136	1.16
計	—	169,235	62.85

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式12,533千株(4.65%)があります。

2 当第2四半期会計期間末現在における、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の信託業務に係る株式数は、当社として把握することができないため記載しておりません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 12,532,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 256,718,300	2,564,258	—
単元未満株式	普通株式 13,602	—	—
発行済株式総数	269,264,702	—	—
総株主の議決権	—	2,564,258	—

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株、信用取引貸付金の自己融資見返り株式が292,500株含まれております。また、「議決権の数」欄には証券保管振替機構名義の完全議決権株式にかかる議決権の数4個が含まれております。なお、「議決権の数」欄には信用取引貸付金の自己融資見返り株式の完全議決権株式にかかる議決権の数2,925個は含まれておりません。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式1株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 松井証券株式会社	東京都千代田区麹町 一丁目4番地	12,532,800	—	12,532,800	4.65
計	—	12,532,800	—	12,532,800	4.65

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	748	696	632	564	523	510
最低(円)	658	580	544	503	477	467

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の方況】

平成22年6月21日付の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の方動は、当該有価証券報告書に記載した事項を除き、次のとおりであります。

役職の方動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 (コンプライアンスグループ 担当役員)	取締役 (総務グループ担当役員兼 コンプライアンス グループ担当役員)	関根 敏正	平成22年6月28日
取締役 (社長室グループリーダー兼 営業グループ担当役員 (営業統括))	取締役 (社長室グループリーダー兼 営業グループ担当役員 (営業統括)兼 人事グループ担当役員)	和里田 聡	平成22年6月28日
取締役 (総務グループ担当役員兼 人事グループ担当役員)	取締役	今田 弘仁	平成22年6月28日
取締役 (顧客サポートグループ グループリーダー)	取締役 (サポートセンターグループ リーダー)	佐藤 歩	平成22年9月15日
取締役 (サポートセンターグループ リーダー)	取締役 (営業グループ グループ リーダー (営業推進・法人 営業担当))	一村 明博	平成22年9月15日
取締役 (社長室グループリーダー兼 営業グループ グループ リーダー (営業推進・ 法人営業担当))	取締役 (社長室グループリーダー兼 営業グループ担当役員 (営業統括))	和里田 聡	平成22年9月15日
取締役 (人事総務グループ グループリーダー)	取締役 (総務グループ担当役員兼 人事グループ担当役員)	今田 弘仁	平成22年9月15日
取締役 (RTGS事業グループ グループリーダー兼 システムグループ担当役員 (調査担当))	取締役 (RTGS事業グループ グループリーダー)	森部 隆士	平成22年10月1日
取締役 (システムグループ担当役員 (開発・運用担当))	取締役 (システムグループ 担当役員)	佐藤 邦彦	平成22年10月1日

4 【業務の状況】

(1) 受入手数料の内訳

期別	区分	株券 (百万円)	債券 (百万円)	受益証券 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	委託手数料	4,055	—	42	6	4,102
	引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	—	—	—	—	—
	募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	—	—	—	—	—
	その他の受入手数料	150	—	2	368	520
	計	4,205	—	43	374	4,622
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	委託手数料	2,490	—	22	89	2,600
	引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	0	—	—	—	0
	募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	0	—	—	—	0
	その他の受入手数料	168	—	1	251	421
	計	2,658	—	23	340	3,021

(2) トレーディング損益の内訳

区分	前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)			当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)		
	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)	実現損益 (百万円)	評価損益 (百万円)	計 (百万円)
株券等トレーディング損益	1	0	1	△0	—	△0
債券等・その他の トレーディング損益	1	0	1	1	0	1
債券等 トレーディング損益	—	—	—	—	—	—
その他の トレーディング損益	1	0	1	1	0	1
計	2	0	2	1	0	1

(3) 有価証券の売買等業務の状況

1) 有価証券の売買の状況（先物取引を除く）

①株券

期別	受託（百万円）	自己（百万円）	合計（百万円）
前第2四半期会計期間 （自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）	3,269,882	1,235	3,271,117
当第2四半期会計期間 （自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）	1,901,185	373	1,901,558

（信用取引の状況）

上記のうち、信用取引の状況は次のとおりであります。

期別	受託（百万円）	自己（百万円）	合計（百万円）
前第2四半期会計期間 （自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）	2,014,406	—	2,014,406
当第2四半期会計期間 （自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）	1,222,452	186	1,222,638

②債券

期別	受託（百万円）	自己（百万円）	合計（百万円）
前第2四半期会計期間 （自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）	—	—	—
当第2四半期会計期間 （自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）	—	—	—

③受益証券

期別	受託（百万円）	自己（百万円）	合計（百万円）
前第2四半期会計期間 （自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）	43,820	29	43,849
当第2四半期会計期間 （自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）	19,633	—	19,633

④その他

期別	新株予約権証書など (百万円)	コマーシャル・ ペーパー (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	—	—	768	768
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	—	—	284	284

(注) 「その他」はカバードワラントであります。

(受託取引の状況)

上記のうち、受託取引の状況は次のとおりであります。

期別	新株予約権証書など (百万円)	コマーシャル・ ペーパー (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	—	—	768	768
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	—	—	284	284

(注) 「その他」はカバードワラントであります。

2) 証券先物取引等の状況

①株式に係る取引

期別	先物取引		オプション取引		合計 (百万円)
	受託 (百万円)	自己 (百万円)	受託 (百万円)	自己 (百万円)	
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	5,091,118	—	9,734,044	—	14,825,162
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	4,585,038	—	9,984,365	—	14,569,404

②債券に係る取引

期別	先物取引		オプション取引		合計 (百万円)
	受託 (百万円)	自己 (百万円)	受託 (百万円)	自己 (百万円)	
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	—	—	—	—	—
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	—	—	—	—	—

3) 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

①株券

期別	引受高 (百万円)	売出高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額 (百万円)	募集の 取扱高 (百万円)	売出しの 取扱高 (百万円)	私募の 取扱高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の取扱 高 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	—	—	—	—	—	—	—
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	—	—	—	0	—	—	—

②債券

期別	種類	引受高 (百万円)	売出高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額 (百万円)	募集の 取扱高 (百万円)	売出しの 取扱高 (百万円)	私募の 取扱高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の取扱 高 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	国債	—	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—	—
	特殊債	—	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—	—
	外国債	—	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—	—	—	—
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	国債	—	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—	—
	特殊債	—	—	—	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—	—	—	—
	外国債	—	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—	—	—	—

③受益証券

期別	引受高 (百万円)	売出高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額 (百万円)	募集の 取扱高 (百万円)	売出しの 取扱高 (百万円)	私募の 取扱高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の取扱 高 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	—	—	—	460	—	—	—
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	—	—	—	493	—	—	—

④その他

期別	種類	引受高 (百万円)	売出高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額 (百万円)	募集の取 扱高 (百万円)	売出しの 取扱高 (百万円)	私募の取 扱高 (百万円)	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の取扱 高 (百万円)
前第2四半期会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	コマーシャ ル・ペーパー	—	—	—	—	—	—	—
	外国証券	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—
当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	コマーシャ ル・ペーパー	—	—	—	—	—	—	—
	外国証券	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—

(4) 自己資本規制比率

		前第2四半期 会計期間末 (平成21年9月30日現在)	当第2四半期 会計期間末 (平成22年9月30日現在)
基本的項目	① (百万円)	70,532	73,557
補完的項目	その他有価証券 評価差額金(評価益)等 (百万円)	—	4
	金融商品取引責任 準備金等 (百万円)	2,283	1,665
	一般貸倒引当金 (百万円)	228	38
	長期劣後債務 (百万円)	—	—
	短期劣後債務 (百万円)	—	—
	計② (百万円)	2,511	1,708
控除資産	③ (百万円)	8,838	8,377
固定化されていない 自己資本	①+②-③ (A) (百万円)	64,205	66,888
リスク相当額	市場リスク相当額 (百万円)	2	1
	取引先リスク相当額 (百万円)	4,112	3,799
	基礎的リスク相当額 (百万円)	3,326	2,372
	計(B) (百万円)	7,441	6,172
自己資本規制比率	(A) / (B) × 100 (%)	862.8	1,083.6

(注) 数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）並びに同規則第61条及び第82条の規定に基づき「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」（昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則）に準拠して作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	12,506	15,191
預託金	223,255	246,018
金銭の信託	10,665	22,450
トレーディング商品	2,861	1,823
商品有価証券等	0	32
デリバティブ取引	2,861	1,791
約定見返勘定	—	24
信用取引資産	160,250	156,429
信用取引貸付金	153,983	146,634
信用取引借証券担保金	6,267	9,795
有価証券担保貸付金	2,624	5,143
借入有価証券担保金	2,624	5,143
立替金	28	35
短期差入保証金	5,585	4,148
その他	7,821	6,803
貸倒引当金	△38	△249
流動資産計	425,557	457,814
固定資産		
有形固定資産	※1 1,039	※1 1,115
無形固定資産	4,752	5,247
ソフトウェア	4,743	5,237
その他	9	10
投資その他の資産	1,825	1,912
投資有価証券	279	302
その他	2,400	2,441
貸倒引当金	△854	△831
固定資産計	7,616	8,275
資産合計	433,173	466,089

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
トレーディング商品	146	294
商品有価証券等	—	32
デリバティブ取引	146	262
約定見返勘定	96	—
信用取引負債	35,664	45,819
信用取引借入金	※2 1,861	※2 4,154
信用取引貸証券受入金	33,803	41,665
有価証券担保借入金	5,892	9,393
有価証券貸借取引受入金	5,892	9,393
預り金	110,872	132,559
受入保証金	128,119	133,458
短期借入金	58,036	37,032
1年内償還予定の新株予約権付社債	15,576	26,506
未払法人税等	2,084	3,236
賞与引当金	54	104
その他	1,111	1,596
流動負債計	357,650	389,997
固定負債		
長期借入金	—	20
未払役員退職慰労金	204	204
その他	3	0
固定負債計	207	225
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	1,665	1,665
特別法上の準備金計	1,665	1,665
負債合計	359,522	391,886
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,945	11,944
資本剰余金	9,793	9,792
利益剰余金	61,383	61,929
自己株式	△9,474	△9,474
株主資本合計	73,646	74,190
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5	13
評価・換算差額等合計	5	13
純資産合計	73,651	74,203
負債・純資産合計	433,173	466,089

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業収益		
受入手数料	9,811	7,277
委託手数料	8,850	6,344
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	—	0
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	0	0
その他の受入手数料	962	933
トレーディング損益	3	2
金融収益	3,571	3,747
営業収益計	13,386	11,026
金融費用	635	375
純営業収益	12,750	10,651
販売費・一般管理費		
取引関係費	1,874	1,691
人件費	※1 985	※1 1,002
不動産関係費	460	552
事務費	1,916	1,023
減価償却費	836	937
租税公課	86	64
貸倒引当金繰入れ	149	—
その他	65	106
販売費・一般管理費計	6,370	5,376
営業利益	6,380	5,275
営業外収益		
受取配当金	9	11
その他	10	7
営業外収益計	19	18
営業外費用		
その他	10	5
営業外費用計	10	5
経常利益	6,389	5,288
特別利益		
投資有価証券売却益	—	7
新株予約権付社債消却益	581	82
貸倒引当金戻入額	—	189
特別利益計	581	278
特別損失		
固定資産除売却損	—	0
投資有価証券評価損	20	—
特別損失計	20	0
税金等調整前四半期純利益	6,950	5,565
法人税、住民税及び事業税	2,976	2,045
法人税等調整額	△112	215
法人税等合計	2,864	2,260
少数株主損益調整前四半期純利益	—	3,305
四半期純利益	4,086	3,305

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
営業収益		
受入手数料	4,622	3,021
委託手数料	4,102	2,600
引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料	—	0
募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料	—	0
その他の受入手数料	520	421
トレーディング損益	2	1
金融収益	1,924	1,827
営業収益計	6,548	4,849
金融費用	288	170
純営業収益	6,260	4,679
販売費・一般管理費		
取引関係費	927	806
人件費	※1 488	※1 458
不動産関係費	287	272
事務費	619	452
減価償却費	450	465
租税公課	31	25
貸倒引当金繰入れ	25	—
その他	21	69
販売費・一般管理費計	2,848	2,548
営業利益	3,412	2,131
営業外収益		
受取配当金	1	2
その他	2	3
営業外収益計	4	5
営業外費用		
その他	7	4
営業外費用計	7	4
経常利益	3,409	2,132
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	22
特別利益計	—	22
特別損失		
投資有価証券評価損	0	—
特別損失計	0	—
税金等調整前四半期純利益	3,409	2,155
法人税、住民税及び事業税	1,579	967
法人税等調整額	△139	△90
法人税等合計	1,440	877
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,278
四半期純利益	1,969	1,278

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,950	5,565
減価償却費	836	937
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	143	△189
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△23	△50
受取利息及び受取配当金	△4,043	△4,130
支払利息	610	349
固定資産除売却損益 (△は益)	—	0
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△7
投資有価証券評価損益 (△は益)	20	—
新株予約権付社債消却益	△581	△82
預託金の増減額 (△は増加)	△4,026	22,759
金銭の信託の増減額 (△は増加)	△1,100	13,250
トレーディング商品の増減額	△357	△1,187
約定見返勘定の増減額 (△は増加)	△56	119
信用取引資産及び信用取引負債の増減額	△65,309	△13,976
有価証券担保貸付金の増減額 (△は増加)	877	2,519
立替金及び預り金の増減額	5,998	△21,680
有価証券担保借入金の増減額 (△は減少)	△66	△3,501
受入保証金の増減額 (△は減少)	12,162	△5,339
短期差入保証金の増減額 (△は増加)	△2,699	△1,437
その他	△879	△559
小計	△51,544	△6,638
利息及び配当金の受取額	3,687	3,344
利息の支払額	△760	△347
法人税等の支払額	△1,307	△3,167
営業活動によるキャッシュ・フロー	△49,924	△6,808
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△44	△20
無形固定資産の取得による支出	△2,261	△706
投資有価証券の売却による収入	—	14
その他	—	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,305	△707

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	38,000	21,000
長期借入金の返済による支出	△5,016	△16
社債の償還による支出	△20,000	—
自己新株予約権付社債の取得による支出	△7,717	△10,848
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	3
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△2,565	△3,843
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,702	6,295
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△49,527	△1,220
現金及び現金同等物の期首残高	74,840	23,391
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 25,313	※1 22,171

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
1 会計方針の変更 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これによる、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

【表示方法の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
(四半期連結貸借対照表関係) 前連結会計年度末に流動資産の「金銭の信託」として表示しておりました外国市場デリバティブ取引にかかる分別管理信託は、第1四半期連結会計期間より「預託金」に含まれる顧客分別金信託としての分別管理が義務付けられたため、流動資産の「預託金」に含めて表示しております。 また、前連結会計年度末に流動資産の「金銭の信託」として表示しておりました店頭外国為替保証金取引及び取引所外国為替証拠金取引に係る区分管理信託についても、その性質を鑑み、第1四半期連結会計期間より併せて流動資産の「預託金」に含めて表示しております。 なお、前連結会計年度末の「金銭の信託」に含まれている外国市場デリバティブ取引にかかる分別管理信託は9億50百万円、店頭外国為替保証金取引及び取引所外国為替証拠金取引に係る区分管理信託は123億円であります(なお、前第2四半期連結会計期間末の金額はそれぞれ8億50百万円、155億円であります。) (四半期連結損益計算書関係) 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第2四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)																																								
<p>※1 有形固定資産より控除した減価償却累計額 945百万円</p>	<p>※1 有形固定資産より控除した減価償却累計額 862百万円</p>																																								
<p>※2 担保に供されている資産はありません。なお、信用取引の自己融資見返り株式を、信用取引借入金の担保として739百万円差し入れております。また、顧客より委託保証金の代用として受け入れた有価証券を信用取引借入金に対して6,842百万円差し入れております。</p>	<p>※2 担保に供されている資産はありません。なお、信用取引の自己融資見返り株式を、信用取引借入金の担保として1,218百万円差し入れております。また、顧客より委託保証金の代用として受け入れた有価証券を信用取引借入金に対して9,501百万円差し入れております。</p>																																								
<p>3 差し入れている有価証券及び差し入れを受けている有価証券の時価は次のとおりであります。</p> <p>(1) 差し入れている有価証券</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">① 信用取引貸証券</td> <td style="text-align: right;">34,648 百万円</td> </tr> <tr> <td>② 信用取引借入金の本担保証券</td> <td style="text-align: right;">1,382</td> </tr> <tr> <td>③ 消費貸借契約により貸し付けた有価証券</td> <td style="text-align: right;">8,224</td> </tr> <tr> <td>④ 長期差入保証金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">4,559</td> </tr> <tr> <td>⑤ 差入証拠金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">32,238</td> </tr> </table> <p>(2) 差し入れを受けている有価証券</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">① 信用取引貸付金の本担保証券</td> <td style="text-align: right;">126,250 百万円</td> </tr> <tr> <td>② 信用取引借証券</td> <td style="text-align: right;">6,224</td> </tr> <tr> <td>③ 消費貸借契約により借り入れた有価証券</td> <td style="text-align: right;">2,466</td> </tr> <tr> <td>④ 受入保証金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">220,029</td> </tr> <tr> <td>⑤ 受入証拠金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">2,319</td> </tr> </table>	① 信用取引貸証券	34,648 百万円	② 信用取引借入金の本担保証券	1,382	③ 消費貸借契約により貸し付けた有価証券	8,224	④ 長期差入保証金代用有価証券	4,559	⑤ 差入証拠金代用有価証券	32,238	① 信用取引貸付金の本担保証券	126,250 百万円	② 信用取引借証券	6,224	③ 消費貸借契約により借り入れた有価証券	2,466	④ 受入保証金代用有価証券	220,029	⑤ 受入証拠金代用有価証券	2,319	<p>3 差し入れている有価証券及び差し入れを受けている有価証券の時価は次のとおりであります。</p> <p>(1) 差し入れている有価証券</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">① 信用取引貸証券</td> <td style="text-align: right;">46,301 百万円</td> </tr> <tr> <td>② 信用取引借入金の本担保証券</td> <td style="text-align: right;">4,167</td> </tr> <tr> <td>③ 消費貸借契約により貸し付けた有価証券</td> <td style="text-align: right;">11,948</td> </tr> <tr> <td>④ 長期差入保証金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">6,059</td> </tr> <tr> <td>⑤ 差入証拠金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">7,708</td> </tr> </table> <p>(2) 差し入れを受けている有価証券</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">① 信用取引貸付金の本担保証券</td> <td style="text-align: right;">140,144 百万円</td> </tr> <tr> <td>② 信用取引借証券</td> <td style="text-align: right;">9,971</td> </tr> <tr> <td>③ 消費貸借契約により借り入れた有価証券</td> <td style="text-align: right;">4,991</td> </tr> <tr> <td>④ 受入保証金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">234,481</td> </tr> <tr> <td>⑤ 受入証拠金代用有価証券</td> <td style="text-align: right;">2,499</td> </tr> </table>	① 信用取引貸証券	46,301 百万円	② 信用取引借入金の本担保証券	4,167	③ 消費貸借契約により貸し付けた有価証券	11,948	④ 長期差入保証金代用有価証券	6,059	⑤ 差入証拠金代用有価証券	7,708	① 信用取引貸付金の本担保証券	140,144 百万円	② 信用取引借証券	9,971	③ 消費貸借契約により借り入れた有価証券	4,991	④ 受入保証金代用有価証券	234,481	⑤ 受入証拠金代用有価証券	2,499
① 信用取引貸証券	34,648 百万円																																								
② 信用取引借入金の本担保証券	1,382																																								
③ 消費貸借契約により貸し付けた有価証券	8,224																																								
④ 長期差入保証金代用有価証券	4,559																																								
⑤ 差入証拠金代用有価証券	32,238																																								
① 信用取引貸付金の本担保証券	126,250 百万円																																								
② 信用取引借証券	6,224																																								
③ 消費貸借契約により借り入れた有価証券	2,466																																								
④ 受入保証金代用有価証券	220,029																																								
⑤ 受入証拠金代用有価証券	2,319																																								
① 信用取引貸証券	46,301 百万円																																								
② 信用取引借入金の本担保証券	4,167																																								
③ 消費貸借契約により貸し付けた有価証券	11,948																																								
④ 長期差入保証金代用有価証券	6,059																																								
⑤ 差入証拠金代用有価証券	7,708																																								
① 信用取引貸付金の本担保証券	140,144 百万円																																								
② 信用取引借証券	9,971																																								
③ 消費貸借契約により借り入れた有価証券	4,991																																								
④ 受入保証金代用有価証券	234,481																																								
⑤ 受入証拠金代用有価証券	2,499																																								

(四半期連結損益計算書関係)

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
※1 人件費の中には、賞与引当金繰入額63百万円が含まれております。	※1 人件費の中には、賞与引当金繰入額54百万円が含まれております。

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
※1 人件費の中には、賞与引当金繰入額31百万円が含まれております。	※1 人件費の中には、賞与引当金繰入額24百万円が含まれております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年9月30日現在)	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在)
現金・預金 16,413百万円	現金・預金 12,506百万円
金銭の信託 26,750 "	金銭の信託 10,665 "
金銭の信託のうち受入保証金の 分別管理を目的とするもの $\Delta 17,850$ "	金銭の信託のうち受入保証金の 分別管理を目的とするもの $\Delta 1,000$ "
現金及び現金同等物 <u>25,313百万円</u>	現金及び現金同等物 <u>22,171百万円</u>

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	269,264,702

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	12,532,801

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月27日 定時株主総会	普通株式	3,851	15	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

当社及び連結子会社は、有価証券の売買等の媒介及び取次、有価証券の引受、募集及び売出しの取扱などの証券業を中心とする事業活動を行っており、当該事業の営業収益及び営業利益の金額はいずれも全事業の合計の90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間(自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)及び前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

海外売上高(営業収益)がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)及び当第2四半期連結会計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

当社グループはオンライン証券取引サービスの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
286.88円	289.03円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	73,651	74,203
普通株式に係る純資産額 (百万円)	73,651	74,203
差額の主な内訳(百万円)	—	—
普通株式の発行済株式数 (千株)	269,265	269,260
普通株式の自己株式数 (千株)	12,533	12,533
1株当たり純資産額の算 定に用いられた普通株式 の数(千株)	256,732	256,727

2 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

第2四半期連結累計期間

前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	15.92円	1株当たり四半期純利益金額	12.87円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14.36円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	12.03円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益金額 (百万円)	4,086	3,305
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	4,086	3,305
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(千株)	256,727	256,730
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算 定に用いられた普通株式増加数(千株)	27,875	18,105
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった 潜在株式について前連結会計年度末から重要な変 動がある場合の概要	—	—

第2四半期連結会計期間

前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	
1株当たり四半期純利益金額	7.67円	1株当たり四半期純利益金額	4.98円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	6.95円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	4.73円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益金額 (百万円)	1,969	1,278
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,969	1,278
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(千株)	256,727	256,732
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に用いられた普通株式増加数(千株)	26,703	13,402
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月13日

松井証券株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 大塚 啓一 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 辻村 和之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松井証券株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成21年7月1日から平成21年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松井証券株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月12日

松井証券株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 大塚 啓一 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 辻村 和之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松井証券株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成22年7月1日から平成22年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松井証券株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年11月12日

【会社名】 松井証券株式会社

【英訳名】 MATSUI SECURITIES CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松井 道夫

【最高財務責任者の役職氏名】 —

【本店の所在の場所】 東京都千代田区麴町一丁目4番地

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長松井道夫は、当社の第95期第2四半期（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。